



大豆 No.3

# のう じ でん そう 農 時 電 送

## マメシクイガの防除について

大豆は開花期を迎え、早生の品種やは種が早かったほ場では莢伸長の時期となり、マメシクイガの防除時期です。

マメシクイガの発生は年1回、成虫の移動能力は低く、土中で越冬するため大豆を連作すると急激に増加します。連作ほ場や前年の大豆作付ほ場に近いほ場では、注意が必要です。

適期防除に努め、被害を最小限に留めましょう。

### ☆防除のポイント

- ① 防除時期：開花期の2～3週間後(産卵初発期)に1回目の防除

成虫発生時に莢があれば産卵するため、品種の早晩生やほ場の生育状況によって産卵時期が変わります。

\*トヨムスメ開花期：本年 7/28 (平年7/30)

- ② 防除薬剤(例)：1回目 ピレスロイド：効果が高く、残効が長い  
2回目 有機リン：浸透移行性がある

\*1回目をプレバソフロアブル5(効果が高く、残効が長い：2週間程度)とし、早めに防除を行う方法もあります。

系 統	薬 剤 名	残効性	接触毒	食毒	殺卵	倍 率
ピレ スロイド	ゲットアウトWDG	長	○	×	×	3,000
	アディオオン乳剤	長	○	×	×	3,000
	バイスロイド乳剤	長	○	○	×	1,000 ~2,000
有機 リン	トクチオン乳剤	中	○	○	×	1,000
	スミチオン乳剤	短	○	○	○	1,000 ~1,500
	サイアノックス乳剤	短	○	○	○	1,000
ジアミド	プレバソフロアブル5	長	○	○	×	4,000

○●農薬の適正使用・飛散防止に努めましょう●○